

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072400845		
法人名	特定非営利活動法人 まんてん		
事業所名	グループホーム かぞく		
所在地	長野県上伊那郡中川村大草4631-9		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成25年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

疑似家庭ではありますが、暖かく施設的に感じられない努力をしています。極一般的な調度品等を利用し家庭的な雰囲気を醸し出しております。
 居屋には利用していた家具等を持ち込んで使っていただいています。地区加入をし、災害協定を結び、地区行事にも参加しています。近所にある保育園、小学校との交流をしており、小学生が毎月手作りのカレンダーを交換に来てくださっています。毎日の食事作り、盛付けを手伝っていただき、仕事ができる喜びを感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

村中心部の役場近くに平成17年に開設された新築平屋の建物が事業所である。
 施設ではなく一般家庭の延長を目指しており、建物はゆったりとした造りで、車椅子でも自由に行き交える広い廊下、高い天井の梁には昭和初期の家屋の電気配線を模した飾りのがいらしと電線が貼ってあり、懐かしさを感じさせる。床暖房で暖かく、加湿器も設置され、手すりは手になじむ形など随所に工夫や配慮がみられる。
 職員は、地元の方が多く、ほとんどが開所以来変わらず、何よりも笑顔が似合うかぞくであり、お互いにカバーし合い、施設長のリーダーシップのもと、支援に取り組んでいる。また、向上心を持ち、馴れ合いにならず、各自が計画的に関連する資格取得や研修参加に努めており、管理者も様々な配慮している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス等で話題にあげ確認をしています。	理念は平成17年の開設当初に施設長以下職員で検討して作成した分かりやすい言葉のもので、厨房前、事務室に掲示され、会議等で確認している。	理念の共有と事業所を広く理解していただくためにも、職員で再確認をし、パンフレット等への掲載を検討されたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や避難訓練・地区の行事等に参加させてもらっている。	地区自治会に加入し、年3回の地区お祭りなど行事に参加している。小学生が毎月手造りの暦を届けてくれ、歌の披露など、年間を通しての交流は毎年恒例となっている。音楽会、運動会も招待状を頂き、参観しており、その場で地域の旧知の方との交流もある。機会あるごとに、地域や学校などに声がけしており、開かれた事業所となるよう努力している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や緊急時登録ボランティアを通じて行っております。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を開示し、そこから意見等を頂いております。	会議は2ヶ月ごとに開催し、家族会の会長、民生委員、村福祉課課長、地区総代の参加で活発に意見交換がされ、議事録も作成している。火災時の避難方法の検討から、近隣住民の方が登録ボランティアとして、緊急連絡装置を利用しての連絡体制構築が実現した。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参画してもらっています。	村役場の担当課課長の運営推進会議への参加、村担当者との電話等でのやりとりなど協働して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。施錠につきましては夜間の防犯のみです。	身体拘束時の同意書などマニュアルは整備されているが、使用に至った事例はない。否定しない言葉がけをはじめとし、言葉による拘束を含めて、職員は身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で注意をし、カンファレンスで話し合いをしております。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解をし活用できる体制は取っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をしております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会同士の話し合いの機会を設け、出して頂いた事項に付いてはカンファレンスに出しております。	家族会は年に2回開催し、「井戸端会議」と称して、職員が席を外した中で、ご家族が意見を出し合い、会長が取りまとめている。施設側は、その質問や意見の一つ一つに丁寧に回答し、共に運営している姿勢が伺えた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に設けている訳ではないが、カンファレンスや日常の会話から意見が反映されております。	職員は、カンファレンス等で積極的に意見交換に参画しており、利用者本位の行事のあり方を提案し、見直しに繋がるなど、運営に関して全職員で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人理事会等で話し合いの機会を設けております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に出席できる機会を設けております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に出て、勉強させて頂いております。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から話・要望を聞きホームに慣れるよう支援しております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスに付いて特別説明の機会を設けておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など活躍できる場面を作っております。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡をとり、ホームでの生活ぶりを知って頂き、共に本人を支援していけるようにしております。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも気軽に面会ができる環境を作っております。	入居時は自宅などを訪問してこれまでの生育歴、生活歴など可能な限りお聞きするようになっている。面会への支援は利用者の状況に合わせており、年2回の家族会はほぼ全ご家族が参加されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関り合える環境や孤立させないよう支援に努めております。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	此方からは関係維持に努めておりますが、相手先からの反応は時間と共に無くなっていく傾向にあります。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位になるように努めておりますが、認知症状が重い場合は家族の意向が重視されます。	毎日の生活の中から、気付いたことを個人記録に書き留めるように努めている。毎月のケース検討でも振り返り、ご家族の話も伺い、職員全員で意見を出し合い検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やこれまでの暮らしについて把握し、家族にもお聞きするように努めております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、連絡ノート等で共有する機会を設けております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、介護計画を作成してもらっております。	介護計画は、担当者が原案作成し、ケース会議で全職員で検討し、計画作成担当者がご家族の意見等をお聞きして、ご了解を頂いている。毎月のモニタリング表には毎日丸つけと月末に評価が記録され、3ヶ月ごとに介護計画を評価して修正を加え、6ヶ月で見直し、計画作成と一連の手順で実施している。毎日の記録は、介護計画を見ながら記入できる様工夫され、細かく記入されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を通してケアの実践結果・工夫の情報を共有しております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲の工夫にも限界があり、それまでに至るまでの努力はしております。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援はしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>適切な医療が受けられるに、本人・家族の希望をお聞きし、医療機関との連携を取っております。</p>	<p>協力医を主治医とする方が大半だが、本人、ご家族の希望を尊重している。協力医は毎月往診しており、協力歯科医の往診もあり、通院もしている。眼科、耳鼻科等の専門医はご家族に対応をお願いしている。看護師が2名、交代で勤務しており、連携して支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が利用者の状態を把握し、職員に伝えており、また反対の場面では看護師の指示を聞いております。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>情報交換や相談できる体制は作っております。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族との話し合いにより取り組んでおります。</p>	<p>事業所独自の「看取りによる指針」に沿って、開設より数例の看取りを経験している。契約時に看取りについて説明し、ご家族などの意思を確認している。終末期は医師からの詳しい状態説明がご家族にもあり、看取りの同意書を頂いている。また指針に沿って関係者と共にチーム内での役割分担等話し合いながら取り組んでいる。ご家族の意思を尊重し、納得されるよう説明と話し合いを重ね、取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訓練は定期的に受けております。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>加入地区との災害協定は結べており、緊急時の登録ボランティアの制度もできました。</p>	<p>今年の防災訓練は、早朝の2名体制時に火災想定で、実施した。緊急時の協力者として今年から近隣の方5名を登録ボランティアとし、役割の説明を4月に行っている。施設長が徒歩数分に居住しており、夜間等心強い。スプリンクラー、自動通報装置等設置しており、停電に備えて発電機も用意されている。</p>	<p>災害対策は繰り返しの訓練が必要であり、いざというときのためにも、入居者の安全を確保しつつ、夜間想定の実施、各装置の点検や取り扱い手順の確認を期待する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳保守に努めております。言葉掛け等もカンファレンスで話しあっております。	職員同士、長いからこそ馴れ合いにならぬようお互いに切磋琢磨し、毎日の支援に取り組んでいる。かかわりの中での言葉かけにも、お互いに配慮され、気付いた人が注意するなど、管理者とともに職員全員で取り組んでいると伺った。トイレの所持品標記も、配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定や希望が言い易い環境作りに心掛けております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	このペースを大切にしております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい物を選択して頂き、身嗜みが取れるように支援しております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事をできるだけしていただいております。	献立は、毎日入居者と職員が相談しながら決め、一緒に買い物に出かけている。午後は、手作りのおやつを出し、五平餅やおはぎなど入居者と一緒に作る機会も設けている。福祉まつりの時など、皆で外で食べる機会もある。盛付け、野菜の下ごしらえなど出来ることをして頂いている。夏には、前の畑で希望する野菜を育て、食卓に載せている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、その日の状態をみて支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが、夕食後は義歯の洗浄や口をすす濯いで頂いております。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄状況に応じてオムツを減らしたり、なるべくトイレ誘導により自然な排泄を促しております。	自立、尿パッド使用、おむつの方など一人ひとりに合わせて、排泄チェック表などで確認しながら、なるべくトイレでの排泄となるよう支援に取り組んでいる。訴えの難しい方は、仕草、時間、動きなどで見逃しがないように、支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歌を歌ったり、運動をしたりして体を動かし便秘予防に繋げる支援をしております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務都合もあり夜の入浴は行っていないが、本人のタイミングには添えるように支援しております。	入浴表をつけて、最低週に2回以上となるように、個々の意思を尊重しながら支援している。入浴拒否する方には、清式等のこともあるが、言葉がけ、タイミング等協力して支援を試みている。リフト設置に向けて、具体的に検討中である。柚子湯等季節の楽しみもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や本人が休みたい時に応じて安眠・休息の支援はしております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報は把握してしており、服薬後の経過は看視しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に買い物や散歩に出掛けたり、歌を歌ったり・レクレーションをして楽しみに繋げる支援はしております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への希望は叶えられますが、遠距離・地域の方の協力までには至っておりません。	遠方への全員でのドライブや外出などは、入居者の重度化で難しくなっているが、近所の桜を愛でたり、散歩などに出かけている。買い物に同行する方もおられる。庭の畑で、野菜を収穫することもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望によりお金を所持して、買い物もしていただいております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援できております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照度・温度や観葉植物には十分注意し、居心地よい環境作りに努力しております。	廊下は広く、天井が高く、天窓もあり明るく開放感がある造りである。床暖房で、快適な気温を維持し、ロビーの西向きに掃出し窓は、レースのカーテンで明るさも適度に調整している。トイレの手作りの表示は見やすく工夫され、混乱をまねかないような職員の配慮が感じられ、浴室、洗濯室の目隠しのカーテン、箱など上手に活用し、危険防止に配慮もし、工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの利用やベンチを置いて空間を確保しております。		

外部評価(グループホームかぞく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた家具等を持ち込んでもらっており、此方で配置した物はありません。	部屋は広めでゆったりとしており、棚が備え付けである。ベッド、タンス、衣装ケース、身の回りの細々とした物など、それぞれ持ち込まれ、居心地よく過ごせるようにご家族の協力を得て、職員は支援している。居室の名札は、必要な方だけ表示してあり、お花が目印の方など、家庭的な居室への配慮が伺えた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全に出来る環境作りに努めております。		

目標達成計画

作成日:平成26年3月6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の再確認とパンフレット掲載。	再確認。 掲載。	カンファレンスでの確認。 パンフレットの記入(再印刷時)。	1ヶ月
2	35	夜間想定訓練。 各装置の点検、取扱手順の確認。	訓練計画の作成。	カンファレンスで検討。 点検業者を含めて検討。	6ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。